

株式会社 アークビルド

DX宣言書

2024年11月29日
株式会社 アークビルド
代表取締役 渡辺 容士

□ 経営理念

街を考え 街を活かし 街を造る。人のために 未来のために。

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ デジタル技術を活用し、営業管理や施工管理、バックオフィス業務の効率化を図るとともに、情報が見える職場環境を整え、社員が働きやすく仕事の満足度が高い会社を実現します
- ◆ 長年に亘り蓄積された顧客情報や物件情報をデータ化し、顧客対応や営業活動に活用することで、お客さまから選んでいただける存在を目指します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2025年12月)

戦略 「施工管理ツールの活用推進とバックオフィス業務の効率化」

- 施策
- ・ 施工管理や物件管理のデジタル化に向け、施工管理ツールの定着化を図りつつ、最大限活用できるようにどの機能まで活用範囲を広げるべきかを検討
 - ・ 現在紙で出力し郵送している注文書や請求書をデジタル化し、郵送にかかる手間やコストの削減、取引先とのタイムラグのない書類受け渡しを実現
 - ・ より効率的かつ正確な勤怠管理に向け、施工管理ツールとの連動も視野に入れながら、業務日報から勤怠情報が自動的に集計される仕組みを構築

➤ フェーズ2(2025年7月 ～ 2026年6月)

戦略 「顧客情報や物件情報のデータ活用に向けた計画策定および3D CAD導入による提案力強化」

- 施策
- ・ 顧客情報や物件情報を活用する対象業務や、具体的な活用イメージを検討
 - ・ 上記検討を踏まえ、共有フォルダーやデータベースに載せる情報(管理対象データ)の対象範囲を設定
 - ・ 必要に応じてデータベース構築を担うシステム開発ベンダーの選定を検討
 - ・ 顧客情報や物件情報のデータベース化に向けた、具体的な作業スケジュールを策定
 - ・ お客さまに映像やCGを活用して建築計画をわかりやすく伝えるプレゼンテーションを実現するため、3D CADの導入およびハード面の整備を実施

➤ フェーズ3(2026年7月 ～ 2027年12月)

戦略 「データ活用による業務効率化と顧客対応力強化を通じた顧客満足度および働きやすさの向上」

- 施策
- ・ 顧客情報や物件情報のデータベースを構築し、フェーズ2で設定した管理対象データを順次登録
 - ・ 当該データベースを活用し、担当者以外でも取引履歴(施工履歴や修繕履歴等)に基づいた適切な顧客対応を可能とし、顧客満足度を向上し続けられる情報共有体制を構築
 - ・ 当該データベースに社内外からアクセスできるようにし、必要な情報がどこでも確認でき、効率的に業務が進められる環境を整備
 - ・ 上記施策の効果を検証し、必要に応じてデータ化する範囲の拡大や、データ活用の対象業務拡大等を検討

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ 社員全員が参画し、一丸となった取り組みを実行します

□ DX推進目標

- ・ 施工管理ツールの定着、注文書や請求書のデジタル化 : 完了(～2025年12月)
- ・ 顧客情報・物件情報のデータベース化 : 完了(～2027年12月)
- ・ 紙の使用量 : 2024年度比 20%削減(～2027年12月)